

つたのは通信

特定非営利活動法人 としま遺跡調査会

イベント報告

「中世の城や館をあるいてみよう」

— 歩いて知る城郭のおもしろさ —

2011年10月1日に、9月の台風の影響で延期になっていた、講座「中世の城や館を歩いてみよう」の4回目が行なわれました。当日は天候に恵まれ快晴の中、埼玉県狭山市に所在する、「柏原城」址に行ってきました。この城は天文15(1546)年、河越城の北条勢を攻めるために、上杉憲政によって築かれたと言われている陣城です。第2回、3回に訪れた「片倉城」(八王子市)や「石神井城」(練馬区)と比べるとやや小規模な城跡ですが、入間川沿いの自然堤防上に築かれた縄張りには、本郭や二の郭、堀、土塁などの遺構が狭山市の指定文化財として残されており、一般の方も自由に見学することができます。

今回は、単に説明を聞いてもらうのではなく、実際に受講生自身で城の縄張り図を描いていただきました。作図方法は、まず自分の歩幅を計測し、歩数で遺構を計測します。例えば、一步が70cm

ならば、10歩で7mになるといった具合です。加えて、遺構の形状や方向を知るには、コンパスが欠かせません。

不慣れな作図であり、多くの受講生が多少の戸惑いをみせながらも、慎重に一步、二歩と測量する人、積極的に動き回る人、見本を参考にしながら図面を描く人など、それぞれのやり方で真剣に図面を描かれていました。

講座の最終回である5回目は10月29日に区立勤労福祉会館で行なわれました。講座の最終回ということもあり、今までに学んだことを復習しながら、中世城郭の果たした役割や変化などを講義しました。

本講座を通して、受講生皆様の勉強熱心な姿や活動的(あるいはタフ)な姿が印象的でした。そんな皆様の気持ちに伝えられるよう、今後もさらなる熱意をもって活動していきたいと思っております。来年度も、区立勤労福祉会館主催

の人気講座である『中世の城や館をあるいてみよう』や、『考古学講座』を開講していく予定です。是非また受講していただければと思います。(榎本邦人)



↑縄張り図の作成中。頼りはコンパスと自身の歩幅。



↑第5回の講義の様子
←第4回の柏原城にて

展示 終了致しました 『冬の収蔵資料展』

豊島区立郷土資料館で企画展『冬の収蔵資料展』がはじまりました。この中の「江戸のあかり」展示コーナーでは、区内の遺跡から出土した、江戸時代のあかりの道具（＝灯火具）にスポットをあてています。油のあかり、蝋燭のあかり、江戸燈火尽など、各テーマに沿って集成した約50点の資料（豊島区教育委員会保管）を公開しています。

このほか、館収蔵品の「新着資料紹介」展示や「むかしのくらし」展示などが、写真や実物資料で紹介されています。（高木翼郎）

「江戸のあかり」展示コーナーには当会も協力致しました。

【展示の詳細】

会 期：4月1日（日）まで

午前9時～午後4時30分

入館料：無料

会 場：豊島区立郷土資料館

所在地：豊島区西池袋2-37-4

交 通：池袋駅（JR・私鉄各線）

西口・メトロポリタン口より徒歩8分

郷土資料館：Tel 03-3980-2351

イベント報告

弥生時代の遺跡を紹介

11月19・20日に豊島区立勤労福祉会館で行なわれた「きんぷくまつり」に、今年も出展しました。

今回は“弥生人がくらした駒込一丁目”と題して、明治時代に弥生文化研究に尽力し、駒込に住んだ考古学者、蒔田鎗次郎に焦点をあててパネル展示を行いました。またパネルを見ながら答えを探す“豊島区ものしり検定ジュニア版”は、子供たちには大好評となりました。（小川祐司）



大人と一緒に小さい子供たちも挑戦しました

展示予告

まちかど遺跡ミュージアムが始まります

“雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム”の第2弾が、当会と雑司が谷案内処共催で、3月10日から催されます。

今回は、雑司が谷界隈の地下に眠る遺跡（雑司が谷遺跡）を紹介します。この遺跡の本格的な発掘調査が始まったのは、20年前のことです。そして、今日に至るまでの調査の積み重ねによって、多くの新しい発見が相次ぎました。展示では、雑司が谷遺跡の発掘調査成果、出土資料や写真パネルで紹介します。

花見のシーズン中も展示しております。雑司が谷の周辺には桜の名所が多くあるので、花見を楽しみながら、雑司が谷案内処に是非お立ち寄り下さい。



雑司が谷案内処の2階で展示



前回の展示の様子

雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム

掘りおこされた雑司が谷の歴史

会 期：2012年3月10日（土）～4月25日（水）

会 場：雑司が谷案内処 2階ギャラリー

所 在 地：豊島区雑司が谷3-19-5

開館時間：午前10時半～午後4時半

休 館 日：毎週木曜日

入 館 料：無料

問 合 せ 先：雑司が谷案内処

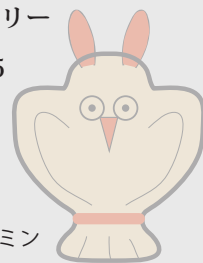
【Tel】03-6912-5206

【Mail】zoushigaya-a@citrus.ocn.ne.jp

交 通：鬼子母神前駅（都電荒川線）より徒歩1分

雑司が谷駅（東京メトロ副都心線）より徒歩2分

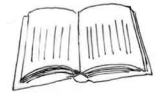
ほか、池袋駅・目白駅からもご利用になれます



スズミン

発掘調査報告書の新刊紹介

このたび当会から、染井遺跡、巢鴨遺跡、駒込一丁目遺跡、の発掘調査の報告書が合わせて5冊刊行されました。いずれの報告書も最新の研究成果を盛り込んだ内容となっております。



< 豊島区遺跡調査会発行 >

『染井XX』 豊島区遺跡調査会調査報告27 染井遺跡（天理教地区）の発掘調査



本書は染井遺跡の中でも北西寄りの天理教地区（東京教務支庁研修棟地区および別館地区）の調査成果を収めたものです。この地区は、近世の間、植木屋の敷地であったことが文献などからわかっていました。発掘調査では、文献にある植木屋の敷地境と考えられる遺構が確認され、周辺の遺構配置などから、植木屋の庭園景観復元への手がかりが得られました。隣接する泰宗寺・藤和駒込染井ホームズ地区

の成果とも併せて、植木屋の実態に迫ることも可能となったのです。また、もう一つの大きな成果は、縄文時代前期の土器がまとめて出土したことです。このことは、縄文時代の人々が染井の地で日々の生活の営みを行っていたことを示しています。いずれの成果も、染井遺跡の新たな一面に光をあてる成果と言えますでしょう。（両角まり）



出土した近世陶磁器

< 豊島区遺跡調査会発行 >

『染井XXII』 豊島区遺跡調査会調査報告27 染井遺跡（聖書協会地区）の発掘調査



この地区には、元禄16（1703）年から慶応4（1868）年まで豊後府内藩（現在の分県）松平家の抱屋敷がありました。発掘調査では松平家とのつながりを示す遺構や遺物は発見されませんでした。ある地点では植木を多く植えていたり、別の地点では密集した建物跡が確認されるなど、土地の中を区画して利用していたことが窺えます。また、この地区の周辺一帯は谷に近く、起伏の多い地形であったものを、何

度も整地してから建物を建てていたようです。最も古い整地の跡は近世以前にまで遡る可能性があります。この地区の隣には中世以前に建立されたと伝えられる妙義神社があり、駒込・染井の一带の中でも古くから拓けた場所だったようです。近世以降の津藩藤堂家の武家屋敷や植木屋の多い土地として知られる染井ですが、藤堂家以外の武家屋敷や、近世以前の歴史にスポットをあてるものとして、この地区の調査成果は重要なものと言えるでしょう。（山田琴子）

< としま遺跡調査会発行 >

『巢鴨VI』 としま遺跡調査会調査報告6 巢鴨遺跡（竹前商店舗ビル地区）の発掘調査



『巢鴨VI』の報告地点は、地蔵通り商店街入口の煎餅屋さん「雷神堂」の店舗改築の際に発掘調査がなされました。地蔵通り、すなわち中山道の北側は、近世に42,900坪の広大な範囲に及ぶ松本藩水野家下屋敷に比定されています。ところで、この水野家は享保10（1725）年に藩主が江戸城内で抜刀事件を起こしたために改易されてしまいます。どうやら松の廊下の刃傷騒ぎは浅野内匠頭（あさの たくみのかみ）に限った話では無いようです。近世の中頃に屋敷

が途絶える事情からか、これまでの発掘調査で水野家下屋敷段階の遺構・遺物の発見は非常に限られています。今回は中山道沿いに延びる屋敷の境堀が発見されました。これは遺物や土中に含まれる宝永テフラ（1707年の富士山噴火による火山灰）から、この段階のものだと判明した貴重な事例です。（宮川和也）



屋敷の境堀

<としま遺跡調査会発行>

『^{すがも}巢鴨VII』 としま遺跡調査会調査報告 7



国道 17 号線に面しているブランドズ巢鴨地区は、江戸時代には信濃松本藩水野家の下屋敷地でした。小さな調査面積でしたが、本地区では水野家によってつくられた大型の堀が発見されています。この堀は 18 世紀初頭には埋め立てられてしまっていますが、その間に 3 回ほど同じような場所に作り替えが行なわれていました。堀

巢鴨遺跡（ブランドズ巢鴨地区）の発掘調査

は谷田川につながる谷のなかに位置しており、自然地形を上手く利用してつくられています。この谷は、今から 1 万 5 ～ 6 千年前頃には形成されたことが自然科学分析から明らかとなり、巢鴨地域の原地形を考えるうえでの貴重な調査といえるでしょう。（小川）



調査区中央で深さ 2.6 m の堀が発見された

<としま遺跡調査会発行>

『^{でんちゅう かみふじまえちよう}伝中・上富士前VII』 としま遺跡調査会調査報告 8



駒込一丁目遺跡は区内最大の弥生集落であり、これまで 17 軒の竪穴住居が発見されています。現在も多くは発掘調査されておらず、まだ多数の竪穴住居が眠っている事が確実な遺跡です。集落の範囲は隣

駒込一丁目遺跡（セリュークス駒込地区）の発掘調査

の文京区まで広がる大規模なものです。今回はわずか 24 m² が調査されたに過ぎませんが、やはり竪穴住居が見つかりました。今だ全貌が明らかでない駒込一丁目遺跡の弥生集落は、今後どのような姿を見せてくれるのでしょうか。（宮川）



1 号住居址 遺物出土状態



出土した弥生土器

※報告書には頒布できるものがあります。詳しい頒布方法につきましては、当会までお問い合わせ下さい。

平成 23 年度事業報告・会計収支報告

平成 23 年 11 月 12 日に当会第 6 回定期総会が行なわれ、平成 23 年度（平成 22 年 10 月 1 日から平成 23 年 9 月 30 日まで）の事業報告とこれに伴う会計収支をご報告いたします。

◎第 5 期を終えて

当会は、去る 9 月 30 日をもって第 5 期を終え、すでに 10 月 1 日から、第 6 期の活動を開始いたしました。NPO 発足から 4 年目にあたる第 5 期は、調査・普及活動に新たな展開があったと同時に、組織運営上の問題点についても考える機会があった年でした。

調査・普及活動としては、2011 年 2 月～3 月にかけて行なった、雑司が谷まちかど遺跡ミュージアム『鬼子母神参道 江戸のにぎわい』展が注目されます。この展覧会は、区や他の組織からの受託事業ではなく、雑司が谷案内処との共催で行なった自主事業だという点で、私たちにとって新たな試みでした。幸い、ご好評を頂いたことから、第 6 期も同案内処での展覧会を開催することになりました。ま

た、組織運営という実務的な側面からは、区文化財係とのパートナーシップについて共に見つめなおすために「課題検討共有会議」を立ち上げ、準備会を重ねています。

第 6 期は、発掘調査が減少しているという社会的状況に鑑み、当面事業規模やスタッフを縮小しての活動となりますが、一層の情熱をもって活動してゆく所存です。上記案内処での展覧会の他にも、区立郷土資料館での展示や春からの区立勤労福祉会館での講座に向けての準備も始まっています。賛助会員の皆様におかれましても、NPO の活動趣旨にご賛同いただき、あたたかく見守っていただきますよう、改めてお願い申し上げます。（事務局）

< 特定非営利活動に係る事業 >

事業名	事業内容	実施日時	実施場所	従事者の 延人数	受益対象者の 範囲および人数	支出額 (千円)
発掘調査	埋蔵文化財包蔵地等での遺跡の発掘調査・試掘調査・基礎整理作業および立会い調査補助作業	10月1日～9月30日	豊島区内	117人	豊島区民 不特定多数	46,310
整理調査	発掘調査の記録・出土遺物等の整理作業	10月1日～9月30日	豊島区 巢鴨複合施設内	154人	豊島区民 不特定多数	18,559
報告書作成	報告書4冊の編集・刊行への協力および、調査会報告書3冊の刊行。	10月1日～9月30日	豊島区 巢鴨複合施設内	22人	豊島区民 他 450人以上	287
普及啓発	「つたのは通信」及び「調査速報」発行、展示会・遺跡見学会等の開催協力および実施等	随時	豊島区内	87人	主に豊島区民 不特定多数	493
人材育成	豊島区「レットライ考古学」開催協力及び考古学講座の開催協力。	10月10日、10月31日、11月14・21日、5月8日、6月12日、7月10日、9月11日	発掘調査現場、 勤労福祉会館	35人	主に豊島区民 不特定多数	319

< 平成 23 年度 会計収支決算書 >

(単位：円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
会費収入	2,000		
賛助会費収入	40,000		
入会金収入	18,000	60,000	
2 事業収入			
発掘調査事業	47,305,929		
整理作業	37,148,582		
報告書作成事業	288,750		
普及啓発事業	346,787		
人材育成費	159,226	85,249,274	
3 補助金等収入			
短期借入金収入	1,000,000	1,000,000	
5 その他収入			
利息収入	5,943		
雑収入	0	5,943	
収入合計 (A)			86,315,217

科 目	金 額		
II 支出の部			
1 事業費			
(1) 発掘調査事業費	40,367,572		
(2) 整理調査事業費	34,854,361		
(3) 報告書作成費	288,750		
(4) 普及啓発事業費	346,787		
(5) 人材育成費	159,226	76,016,696	
2 管理費			
賃金	4,013,277		
厚生費	2,828,042		
顧問料	120,000		
(税理士報酬)			
研修費	9,000		
役務費	69,235		
需用費	265,467		
施設費	231,300		
使用料・賃借料	0		
租税公課	1,762,200	9,298,521	
3 その他支出			
短期借入金返済支出	1,000,000	1,000,000	
支出合計 (B)			86,315,217

当期収支差額 (A) - (B)

0

前期繰越収支差額 (C)

124,821

合計(A)-(B)+(C)

124,821

< 平成 23 年度 会費収支決算書 >

(正会員・賛助会員費)

(単位：円)

科 目	金 額		
I 収入の部			
1 会費・入会金収入			
会費収入	2,000		
賛助会費収入	40,000		
入会金収入	18,000	60,000	
2 その他収入			
利息収入	46	46	
収入合計 (A)			60,046

科 目	金 額		
II 支出の部			
1 会費・入会金支出			
会報発送料	12,980	12,980	
消耗品			
会員カード用紙	1,860		
写真用紙	890		
ゆかりの地巡り 参加費	300		
総会交通費	3,000	6,050	
支出合計 (B)			19,030

当期収支差額 (A) - (B)

41,016

前期繰越収支差額 (C)

147,895

合計(A)-(B)+(C)

188,911

◎役員を選任

理事は、前期から引き続き菊池徹夫（理事長）、山口廣（副理事長）、根岸豊、橋口定志が再任となりました。監事には浜田晋介、小森晴子が再任となりました。

江戸時代の陶磁器分類

～ 物言わぬ「遺物」は語りだす ～

遺跡の仕事には、発掘調査で出土した遺物を分類していくという重要な工程がある。分類とは、江戸時代の遺物では、陶磁器や土器、その他の材質に分け、さらに碗や皿・鉢などといった器類や産地、年代を判別し、計量していく作業のことである。江戸時代の製品は、その時代に暮らした人々の智恵や美意識があればこそ現代に繋がってきている、そんなことを感じながら分類作業に携わっている。

江戸時代の遺物は、形の残っているものもあるが、多くは破片で、小さいものは指の先程の細かいものも含まれている。それらの破片が何の器種の、どの部分に当たるのか、カーブの状態、厚み、文様、釉薬、胎土など、その小さな破片からでも、多くの情報を得ることができるのだ。

産地を知るには主に胎土が1つの決め手となる。土はその製作地によって、色の違いや、キメの粗密などが様々で、釉薬の色調や文様にも、それぞれの産地によって特徴がある。例えば、磁器の場合、瀬戸・美濃産の胎土はガラス質でガラガラとし、肥前産はねっとりとした光沢があるものやパサついた細かい胎土だったりする。陶器の多くは瀬戸・美濃産が占める。一概には言えないが、瀬戸・美濃産はキメが粗くザクザクしている。瀬戸・美濃産がわかるようになれば、出土した陶器の9割近くは産地の分類ができるということだ。その他にも製造された年代によって、器形や意匠、技術などが変化する。

これらを総合的に見ていき、観察した結果が、遺跡・遺構の利用されていた（構築・廃絶）年代などの目安になり、その遺跡・遺構を理解していく上では遺物が重要な手掛かりになる。

発掘調査の仕事に従事し、25年ほどになるが、陶磁器は奥が深く、今でも学ぶことの多い日々である。
(佐藤万里子)



出土遺物の分類・計測作業

【編集後記】

● 来年度の豊島区立勤労福祉会館主催の考古学講座は、区内遺跡の発掘調査の最新研究成果を含めた内容を予定しております。

● 2月～4月は2つの展示が開催されます。当会スタッフの汗と涙の結晶です。お見逃しなく。 (囃)

編集・発行



特定非営利活動法人
としま遺跡調査会

〒170-0002 東京都豊島区巢鴨3-8-9 巢鴨複合施設 201号室

Tel・Fax 03-3915-6962

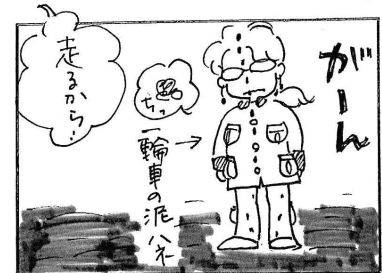
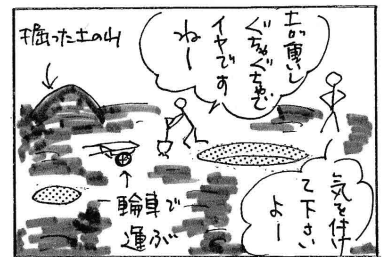
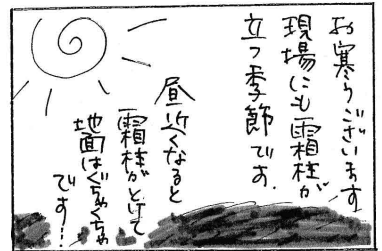
E-mail tics389@a.toshima.ne.jp

ホームページアドレス：<http://www.toshima-iseki.org/>

「つたのは通信」の由来：蔦は大きな樹ではありませんが、生命力が非常に強い植物です。この蔦の葉が周囲の樹木や建物につたい茂るように、多くの人に遺跡の楽しさ、大切さを知ってもらいたいとの願いを込めて会報の名としました。また、染井遺跡を代表する大名屋敷である津藩藤堂家の家紋としても、馴染み深い植物です。

かんざれ
⑦ 調査員 ⑩

お寒い季節です
現場にも雨相模か
立つ季節です



服は汚れるし、靴の裏には泥の層ができる。そして、現場は泥だらけ。冬の発掘調査現場によくある風景。「現場はきれいに」と言っている自分の靴の裏もまた泥んこ。

題字：湯澤和子

ロゴデザイン：石原幸

イラスト：榎本邦人・千葉弘美